JSCE2025
策定に向けて

2024.4.24

企画部門

土木学会５か年計画の位置付け

- **JSCE2000（1998）**　理事会企画運営連絡会議策定
  - 企画運営会議で審議・調整され、理事会で承認された
    土木学会改革のための諸課題とそれに対する取り組み
- **JSCE2005（2003－2008）**　理事会企画運営連絡会議策定
  - **土木学会の中期目標、中期計画を表明する手段**として位置付け、今後５年を目途に見直し、学会の健全さと活力を持続するための評価・実行システムとして組み込む
- **JSCE2010（2010－2012～2014）**　理事会企画運営連絡会議策定
  - 土木を取り巻く現状を再認識し、土木界における共通的課題を整理・集約するとともに、**土木学会がとるべき行動の重点課題**を設定
- **JSCE2015（2015-2019）**　企画部門（企画委員会）策定
  - 総合学問である土木工学を強く意識し各種問題に土木学会として向き合い、**直近に解決すべき問題や将来にわたって継続的に検討すべき問題**をとりまとめ
- **JSCE2020（2020-2024）**　企画部門（企画委員会）策定
  - 20～30 年後に達成すべき目標として「中期重点目標」を定めて、この達成に向けて、**5年間に重点的に取り組む事項**を社会や会員に対して具体的に示す

土木学会の役割
社会と土木の100年ビジョン（2014）より

- 学術・技術の進歩への貢献
  - 知識・技術の**先端性、学際性、総合性の追求** ／ 知識・技術の**事業への応用** ／ 知識・技術の**蓄積と活用**
- 社会・人類の発展への貢献
  - 社会的課題への取り組み
    - 気候変動、インフラ老朽化、国土強靭化等の**解決方策の提言**／日本社会と土木の**未来像の提言**／**災害緊急調査**の実施
  - 国際貢献
    - 社会インフラシステムの**海外移転、輸出** ／ 国内外の**土木関係活動のシームレス化**の推進 ／ **技術基準の国際調和**
  - 社会とのコミュニケーションの推進
    - 市民、メディアとの**コミュニケーションの推進** －不言実行から有言実行へ
    - **社会の技術リテラシー向上**への貢献
- 技術者の育成、資質向上
  - **学校教育、継続教育**の推進、改善 ／ 技術者の**能力保障と活用** ／ 技術者**交流の促進** ／ **ダイバーシティの推進**

JSCE2015
学会の３つの使命と具備すべき９つの機能

使命	重点目標
学術・技術の進歩への貢献	学術・技術の先端性・総合化
	学術・技術の事業への展開性
	技術蓄積・移転性・流通（技術基準の国際化）
国内・国際社会に対する責任・活動	公正な立場からの専門的知見の提供・技術支援等の社会貢献
	国際調和と貢献
	情報収集・分析・発信機能
技術者資質と会員満足度（CS）の向上	技術者支援（技術力の向上、倫理観の研鑽等）
	情報取得機会の拡大
	学会運営の適正化・効率化

JSCE2025（仮称）
ー次期5か年計画（2025－2029）

- **問題認識**
  - 土木学会の改革（JSCE2000）から四半世紀
  - 生成AI・対話型AIが急速に進歩する時代における**「土木学会」の意義や価値**は
    ー次の四半世紀を見据え**「土木学会」のあり方**を捉え直す
- **学会の活動の背景として、哲学的な議論が定期的に必要**
  - 土木学会とは何か、を改めて認識する
  - 過去の議論や発信のレビューの上で、直近５か年で特になにに取り組むか
- **学会全体（本部・支部、部門・委員会、事務局）の体制、関係**
  - 活動を支えうる組織体制のありかたは

公益社団法人 土木學會
Japan Society of Civil Engineers

JSCEの「ミッション」

使命・役割

使命

- 土木の使命は、「常に、長期的かつ大局的な展望を保ちながらも、時代の変化を敏感に捉え、さまざまな課題や社会からの要請に応え、公益の増進を図るための不断の努力を続けること」（社会と土木の100年ビジョン）
- 土木界、土木学会、土木技術者の使命は、「土木界が行ってきたこれまでの経験を踏まえ、様々な社会の課題解決に向けて、さらには持続可能であり、次世代が夢と希望を持つことができる社会の構築に向けて、今まさに我々がすべきことを考え、それらを活動に移すことによって、将来の社会をより良いものに変えていくこと」（社会と土木の100年ビジョン）

役割

- 土木学会の目的は、「土木工学の進歩および土木事業の発達ならびに土木技術者の資質向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与すること」（土木学会定款）
- 土木学会の役割は、「学術・技術の進歩への貢献/社会・人類の発展への貢献（社会的課題への取り組み・国際貢献・社会とのコミュニケーションの推進）/技術者の育成、資質向上」（社会と土木の100年ビジョン）

JSCEの「ビジョン」

あるべき姿/未来像

長期の「ビジョン」 数十年～100年

学会が実現したい未来は
あるべき学会自身の未来は

短期の「ビジョン」 数年～10年

学会が実現したい未来は
あるべき学会自身の未来は

JSCEの「バリュー」

価値観/行動基準

DE & I

共有 Engineering

交流 Society

具体的な「アクション」

JSCE2025で提示する内容

DE&Iを当然の前提として

JSCE2025（仮）の「バリュー」

Why
なぜ必要か

共有
Engineering

問題認識
【社会的問題】
SDGs・地球温暖化

【業界的問題】
志望者減・就業者減

【学会内問題】
学会全体
部門間
本部・支部間
事務局内（本部・支部）

ナレッジ
【専門知】
分野内
分野横断
異分野

【工学基礎】
三力学
ICT

What
なにを共有するか

交流
Society

学会内
【土木系・土木好き】
専門家・愛好家
↓
委員

【会員】
一般会員
学生会員

【職員】
本部×支部
本部内

学会外
【市民、社会】

【異業種・異分野】

【土木界】
地方自治体
地方建設業

Who
誰と交流するか

JSCE2025（仮）の「バリュー」

Why
なぜ必要か

共有

Engineering

- 問題認識
- ナレッジ

What
なにを共有するか

交流

Society

- 学会内
- 学会外

Who
誰と交流するか

誰と誰が（Who）

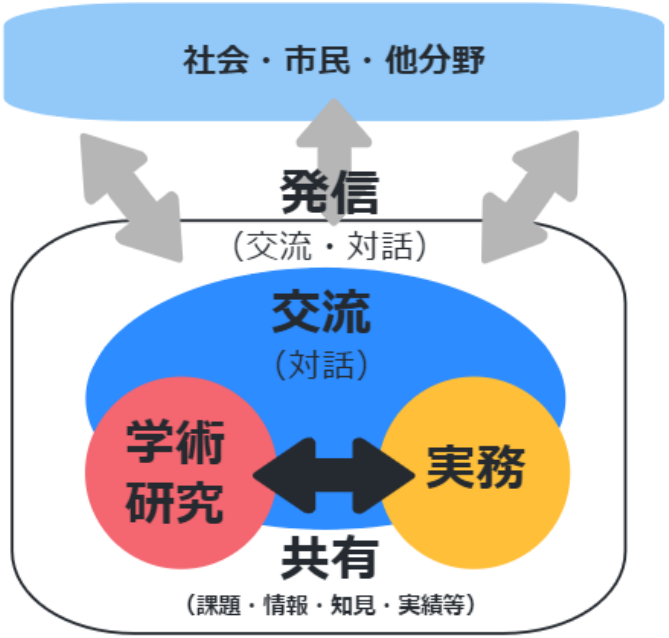
どうやって（How）
いくらで（How much）

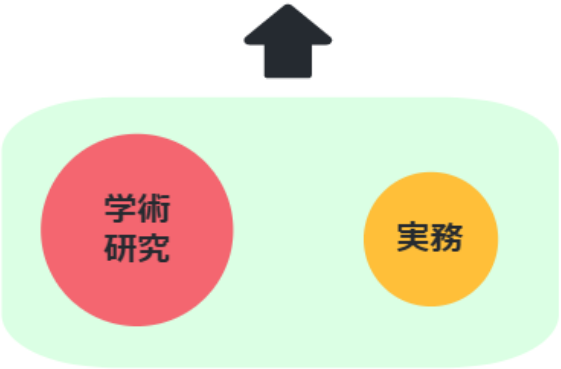
なにを（What）

どうやって（How）
いくらで（How much）

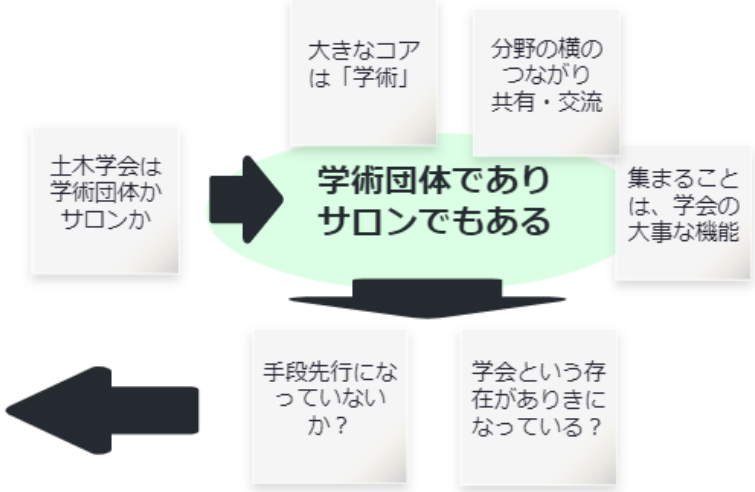
具体的な「アクション」

土木学会とはどのような場か





二極化しているのでは？
民間（実務）からの参加が
減っているのでは



第一義的には
社会の課題解決の取り組みを
発表し、共有する場
（プラットフォーム）

共有の手段として
学会の中での交流（対話）

改めて「土木学会」とは

サードプレイスとして
職場・専門の枠を超えて交流できる場

専門家集団として
専門的な言葉で安心して共有・交流（＝議論）できる場

検討の進め方

過去のレビュー

土木学会では
- これまでなにを言ってきたか
- これまでなにをしてきたか
- やれていないことはなにか

文献・資料ベースでの整理・評価
- 100年ビジョン
- JSCE20XX
- 宣言・提言

現状認識

会員　委員　事務局

アンケート
- 学会のあるべき姿
- 学会のやるべきこと
- 現状の問題
- 自由意見

短（2030）
中（2040）
長（2050）

将来展望

これからどうなっていくか
- 社会経済状況
  - 国内／国外
- 技術動向

再確認と整理
（前提の再認識）

あるべき姿 と **やるべきこと**

JSCE2025（案）で
提示する内容

アクション × **体制・人材**

- 部門 — 委員会
- 支部
- 事務局（本部・支部）

検討体制

企画委員会と別に
JSCE2025（案）検討WGを
設置

企画委員会

学会企画運営のあり方を議論し、理事会へ提示

■メンバー

岸委員長（企画部門主査理事）
福田幹事長、副幹事長
三輪専務理事
企画部門 担当理事
WG主査・メンバーの一部
部門リエゾン

副幹事長以上を執行部とする

過去のレビュー | **現状認識** | **将来展望**

現状分析WG

■メンバー
主査：下大薗委員
副査：学・産の委員
＋学・産・官の委員、他部門リエゾン委員
＋事務局職員（本部・支部）

ビジョン・ミッションを踏まえ過去の議論と現状からやり残していることを整理

将来展望WG

■メンバー
主査：岡崎委員
副査：学・産・官の委員
＋学・産・官の委員、他部門リエゾン委員
＋若手、学生
＋事務局職員

ビジョン・ミッションを踏まえさまざまな将来予想から、学会のやるべきことを提示

短期的なビジョンを提示
JSCE2025アクションの具体化

JSCE2025－なにを示すか（構成案）

- 現状の評価（四半世紀のフォローアップ）
  - JSCE20XXや100年ビジョン等で示してきたことの確認
  - できたもの／やっているもの／できていないものは何か
- 社会環境・社会情勢の再認識
  - 人口減少（若年層の絶対数の減少）
  - 大容量高速通信（５G・６G）の普及と進歩／生成AI（対話型AI)の急速な進歩
  - コロナ禍を経て、何が変わったか　あらためて重視することは何か

Why
なぜ必要か

- 改めて「土木学会」とは　－学会の定義の再整理・再認識
  - 学術団体か、交流団体か、広報団体か－土木学会の「価値の源泉」はどこにあるか
  - 会員は「土木学会」に何を求めているか／社会は「土木学会」に何を求めているか
  - 「土木学会」の現状はどうか
- 「土木学会」が行うべきことはなにか／それに対応する組織（事務局含む）のあり方は
  - 現状分析に基づく、ミッション・ビジョン実現のための問題・課題の明示

短期的な
ミッション
バリュー

- 具体的なアクション
  - 実行計画の明示（達成目標、実施主体、実施項目、必要リソース、等）
  - 学会活動を支え得る、学会組織（部門・委員会・事務局）のかたち
  - 学会活動を支え得る、プロパーの人材像の明示とスタッフデベロップメント